

ブザンソン市における住民諮問委員会の活動に関する研究 — tram プロジェクトを対象として —

正会員 ○江口久美*

近隣住区評議会 ブザンソン市 ترام
合意形成 住民

1.はじめに

フランスでは、2002年の近隣民主主義に関する法律(Loi relative à la démocratie de proximité)により、人口8万人以上のコミューンは義務的に近隣住区評議会(Conseil de quartier :CQ)を希望があれば設置することが定められた。ブザンソン市はフランス東部のフランシュ＝コンテ地域圏の首府であり、ドゥー県の県庁所在地でもある。人口は117,733人で面積は65.05 km²であり、主要産業は精密機器と時計である。避暑地としても知られるブザンソン市で CQ は、住民諮問委員会(Comité consultative d'habitants :CCH)として設置されている(図1)。中心市街地はドゥー川により環状に取り囲まれている。

本研究は、ブザンソン市における CCH の制度及び活動概要について明らかにすることを目的とする。特に、2010年以降の ترام プロジェクトの事例に着目する。資料としてはブザンソン市の市報を用いる¹⁾。

る道具であり、下記の件について市民、代表、行政間での最適な議論をすることに寄与する：—市の政治的・行政的組織の理解を促進する。—地区の生活の質の改善に寄与する。—住民の言葉を生かす。—「共に生きる」ことを促進する。」

憲章の第2条により、CCHメンバーは以下の権利を与えられる：「—地区または場合により市または都市圏における行政によるプロジェクトについて知り(または)諮問される権利。—この権利を保証するために、市は地区を構築するプロジェクトに関わり、プロジェクトの手続きに(機会の状態と同様にプログラムの定義も同様に)この諮問を反映する。—意見とプロジェクトに関する意見を表明する権利。—地区の最も良い生活の質のためにプロジェクトへの参加を促進するため、発表されたプロジェクトの修正を提案する権利。—行政の予算に関して、特に市の政治的・行政的組織を形成する権利。」

表1 各地区の分類()内は住民数

5,000人未満	5,000人以上 10,000人未満	10,000人以上
Battant(4,188) Bregille/Prés de Vaux(3,093) Clairs-Soreils(4,118) Tilleroyes(1,342) Velotte(2,201)	Boucle/ Chapelle des buis (10,794) Grette/Butte (9,399) Rosement/ Saint-Ferjeux(6,176)	Chaprais/Cras (15,439) Montrapon/Orchamps /Combe Saragosse/ Vaîtes(14,057) Planoise/ Châteaufarine (19,531) Saint-Claude/Torcols/ Chailluz (13,975)



図1 ブザンソン市における CCH (出典: Ville de Besançon, *Besançon Votre Ville*. Hors-série CCH, Ville de Besançon, 2011, pp.16-17)

2.ブザンソン市における CCH 制度

住民の参加は CQ として 1996年に始まった。2008年に憲章が改定された際に、それらは 13の CCH として名付け直された²⁾。

CCH は以下の様に定義されている。「政治的決定を助け

各 CCHメンバーの任期は行政命令により最初の会議で決定される。定例会議は年3回開催される。CCHの構成は第5及び6条で定義されている。地区は人口の多さに応じて、5,000人未満、5,000人以上10,000人未満、10,000人以上の3つに分類されており、それぞれメンバーは28名、36名、44名と定義されている(表1)。各 CCH は下記の4つのグループの同数のメンバーにより構成される：1) 大文書に基づいて抽選により選出された

《地区の全住民》グループ。2) 大規模な公募に応募したボランティア住民グループ。3) 地区の経済的活動者または NPO グループ。4) 地区の関係者から市長が任命したグループ。

委員長は最初の会議で決定され、任期は 2 年間である。

3. トラムプロジェクトと CCH の活動

ブザンソン大都市圏は 2001 年に 59 コミュニュから設立され、現実的な自治体としてのアイデンティティを創り上げることが目的としているが、代表は地域のコネクションを強化するためのトラムの創設を主張していた。大都市圏の面積は 432km² で人口は 180,786 人であり、トラムは全長 14.5km で 31 駅の予定である (図 2)。



図 2 トラムの予定 (出典: Ville de Besançon, *Besançon Votre Ville*, October, Ville de Besançon, 2010, p. 13)

まず、トラムプロジェクトの日程を表 2 の様に明らかにした。まず、2010 年 6 月 15 日にグラン・ブザンソンに CCH と開発協議会の 200 名のメンバーが質問をし、6 月 30 日にプロジェクトが承認された。2010 年末からは公開アンケートが行われた。

表 3 には CCH に関連した活動を整理した。特に CCH が影響を与えたものは、2012 年 2 月の CCH による駅名の決定で、10 駅の名称が変更された。翌年 2 月、シャプレ CCH は合意形成を行い、フロール像を移転し広場に展示した。6 月、上位計画に反映させるため、ロズマン CCH はオラトワール通りの安全と車の速度制限を交通課と提案した。

4. おわりに

CCH は行政からの要請だけではなく、自発的に活動し行政と協力し提案を実現していることが明らかになった。

表 2 トラムプロジェクトの予定された日程

日付	内容
2010 年 6 月 15 日	CCH と開発協議会が質問
2010 年 6 月 30 日	DUP (公用宣言) 書類申請
2010 年末 - 2011 年初頭	公開アンケート
2010 年末	軌道建設開始
2011 年末 - 2014 年末	ホーム建設
2012 年初頭 - 2013 年末	メンテナンスセンター建設
2013 年	2014 年開業に向けた車体生産
2014 年末 - 2015 年初頭	試験運転
2015 年中頃	トラム開業

表 3 CCH に関連した活動

日付	内容
2010 年 6 月 15 日	CCH と開発協議会が質問
2010 年末 - 2011 年初頭	公開アンケートでのパレント CCH による提案
2011 年 6 月	ロズマン CCH が不安を示す。委員会が駅の位置を提案
2011 年 9 月	ヴェロット CCH が公共交通利用に関する調査
2011 年 9 月	行政が CCH に駅名提案を要請
2012 年 2 月	CCH により駅名決定。シャプレ CCH によるフロール像移転
2012 年 6 月	バッタン CCH が諮問要請。シャプレ CCH が合意形成により像移転。プラノワズ CCH がトーテム移転を提案。パレント CCH がトラムに関する疑問表明。ロズマン CCH が交通課とともに交通計画を提案。ティエロワイエ CCH がトラムとのリンクを考察

主要参考文献

- ⁱ Ville de Besançon, *Besançon Votre Ville.*, Ville de Besançon, 2010-2012
- ⁱⁱ Ville de Besançon, *Conseils consultatifs d'habitants de Besançon Charte et Règlement intérieur.*, 2008

*京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻日本学術振興会特別研究員

*JSPS Research Fellow, Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University